

今回のテーマ

「交流及び共同学習について」

第4回のブロック学習会は、交流及び共同学習について「教科」と「それ以外の活動」に分けて話し合いました。「各校の取り組みの仕方」や「どのように交流及び共同学習を始めたらよいか」など様々な意見を出し合いました。以下にその一部を紹介します。



1 教科交流について

続けたこと、よいこと

- ・ 音楽、体育、外国語は本校の子どもの実態的にも交流に行かせやすい。
- ・ 交流及び共同学習を行うことによって、通常の学級の児童が特別支援学級の児童のことに理解を示してくれるようになった。
- ・ 担任同士の間を密にすること。

- どのような交流及び共同学習を行うにしても、担任同士が連絡を密にすることが大切だということを確認しました。各校の工夫として、職員室の座席を交流の多い学年の近くにしてもらい、連絡ノートを使う、事前に相談しておくことなどが挙げられました。



問題点、工夫が必要な点

- ・ 交流の際に学級に残していく児童がいるため付き添いができない。
- ・ 交流の時間がたくさんあり、特別支援学級での授業と交流の時間のバランスが難しい。休み時間がとれない子もいる。
- ・ 保護者の希望と本人の実態に差がある。
- ・ 交流先の担任の先生が支援の仕方が分からず困っている。



- 特別支援学級は、学級にいろいろな学年の子どもたちがいるため、交流の付き添いに人が割けず、交流に行かせることが難しいという意見がありました。また、本人の能力や意欲に関わらず、保護者の思いが強く、学校側としてもどのように対応したらよいだろうかという悩みを抱えている先生もいらっしゃいました。

やってみたいこと

- ・ 入学時に「お試し」で全教科交流に行かせてみる。
- ・ 学年関係なく学級全員で同じ学級に交流に行く。
- ・ 全教員が同じテーマで一斉に授業する。特別支援学級の担任が行う授業に通常の学級の児童も自由に参加できる。

- 土台の部分である「校内体制」を整えることが大切であるとの意見が多く出されました。新設校も増えており、特別支援学級の在り方や教職員の意識の部分は、通常の学級の担任に理解や支援を求めるだけではなく、必要に応じて特別支援学級の担任が特別支援教育コーディネーターとしての立場から校内研修や情報発信をしていくことも必要になってくるのかもしれません。

2 その他（給食、掃除、委員会・クラブ活動、学校行事など）について

続けたいこと、よいこと

- ・ 給食、掃除、縦割り活動、委員会・クラブ活動、休み時間、分団、米作り
- ・ 運動会（学年の種目に参加、学級独自の競技など、各校で参加の仕方は異なる。）
- ・ 校外学習、中津川野外学習、修学旅行（事前・事後学習も一緒に行う。）

- 教科学習に比べて交流しやすい行事は多いですが、子どもの実態に合わせて参加している学校が多いようです。運動会や学芸会は、学級単独で種目や演目を設定して取り組む学校も少なくないようでした。



問題点、工夫が必要な点

- ・ 運動会の参加方法
- ・ 校外学習の付き添いに人が割けず、行けていない。
- ・ 障害が重い児童の交流の仕方が難しく、できていない。



やってみたいこと

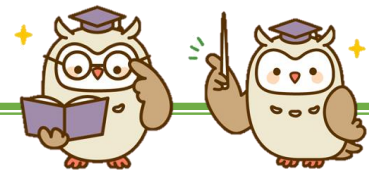
- ・ 通常の学級の子どもたちを特別支援学級に招待する活動やイベントを行う。
- ・ 一人で行かせるのが難しい児童は、担任付き添いで給食交流を行いたい。

アイデアを具現化するために

- ・（給食）通常の学級の児童たちに迎えに来てもらい、通常の学級で給食を食べる。
- ・（給食）学級も行事も落ち着いた3学期に特別支援学級へ給食を食べに来てもらう。
- ・（運動会）単独競技を行うことで、特別支援学級の児童たちのことを知ってもらう良いチャンスにする。

- 給食交流は方法次第ですぐにでも始められそうです。調理所の方にあらかじめ交流先の学級に食数を増やしてもらうよう伝えておけば、給食を持って運ぶ必要もなくスムーズに進むのではないのでしょうか。

教職員の手が足りない学校も多く、交流に行かせたいけれど学校事情でなかなか難しい学校もありました。



ブロックのみなさま

ジャージOK、車も駐車場次第だけどOK！とてもアットホームな会です。地域のことやテーマについて理解が深まるはずです！！

次回は、1月15日(火)18：30～ 諏訪小学校！！

テーマは、「地域情報を共有する会」です。是非一緒に学びを深めましょう☆

文責：諏訪小学校 加藤昭太郎